



アカデミーかわら版

伊藤若冲「雨龍図」より構成

「開学 30 周年を祝う」 12 月 9 日に記念式典

開学 30 周年記念式典、特別鼎談

12月9日9時30分より、記念式典が執り行われました。馬場康雄学長の言葉、太田猛彦理事長、石井宏之財団理事長の挨拶に続き、福田紀彦川崎市長を始めとする来賓の方からお祝いの言葉がありました。市民の生涯学習の場を30年にわたって構築してきたこと、その30年の歴史の重みを共有していただけたと思えるお祝いの言葉が相次ぎました。



続く、特別鼎談「学び続けることの意味」では、福田紀彦川崎市長、



太田猛彦理事長、藤嶋昭顧問理事といういずれも“語りの達人”

が一堂に揃い、予定を15分延長して盛り上がりました。福田市長は、少年時代ボーイスカウトに入り、心身を鍛えたこと、アカデミーではぜひ川崎学を受講したいとも。自らを埼玉の豊かな自然の中で学び、成長した“自然派”と語られた太田理事長、そして“10年偉大なり、20年恐るべし、30年歴史なる”という中国の格言を紹介くださった藤嶋昭顧問理事。それぞれのスタイルで学び続けていらっしゃるお人柄の素晴らしさが参加・視聴された皆さんにしっかりと伝わる鼎談となりました。

30周年記念シンポジウム「新しい時代の市民大学」基調講演とパネルディスカッション

基調講演では、先ず講師の坂口緑先生から、大学とは何かという根源的な問いに対して洋の東西を概観した解説がありました。日本で1920年代に各地に設立された自由大学を中心



明治学院大学
社会学部教授
坂口 緑 先生

に、庶民大学などが紹介され、さらには、多数支配を意味するポリアーキーの概念に基づく3分類と、日本における民主主義の時代的変遷の推移に自由大学、庶民大学、かわさき市民アカデミーを系統づけた政治学者で第2代学長の篠原一先生の解説と対比させ、かわさき市民アカデミーを庶民大学と同様、戦後民主主義・フルポリアーキーのカテゴリーに含め、第3のカテゴリーに新しい市民大学を位置づけました。そこで語られた新しい市民大学は、「都市住民が地域コミュニティに関わるきっかけとして機能する学習の場」と定義されました。

続くパネルディスカッションでは、アカデミー開学前から川崎市の社会教育や生涯学習の分野に関わってこられた日本女子大学名誉教授田中雅文先生をコーディネーターに、EU、北欧、旧ソ連地域を国際比較研究のフィールドにしている一方「市民大学」の事例調査もしてこられた聖心女子大学教授澤野由紀子先生、そして、渋谷のまちをキャンパスに誰もが参加できる学び場を提供するNPO法人シブヤ大学大澤悠季学長、馬場学長、そして、坂口先生という豪華なメンバーによるパネルディスカッションが繰り広げられました。パネリスト間の白熱した討議空間もあり、テーマも内容も30周年記念シンポジウムにふさわしいものだったと高い評価が寄せられています。



「かわさき市民アカデミー今昔物語」の展示

開学30周年を祝うフェスタ会場に小文が掲示されました。

アカデミー開学の精神は今も綿々と引き継がれています。しかし、その制度や仕組みは少しずつ変化してきました。今私たちが何気なく口にする「修了」や「単位」、あるいは「会員」といった言葉も、背景にある制度が今とは異なるので、その言葉の持つ「意味」は同じではありません。ゆえに「重み」も違います。開学当時の「会員=修了を目指す受講生」にとって、「単位」の大切さは現受講生のそれとは数段違うと言ってもよいでしょう。

30年前の10月入会の第1期生142名は、4期2年間の履修期間に、それぞれの専攻コースの講座と演習(今のワークショップ)併せて24単位取得することが求められました。加えてその他に、川崎学最低4単位を含む専攻領域以外の20単位、課題研究8単位、社会活動等への参加8単位、計36単位を取得することが「修了」の条件だったので

す。武蔵小杉の生涯学習プラザが誕生したのは1998年10月でした。開学してからの5年間は様々な施設に教室を間借りしていて、受講生の通学は

転々としていました。

…そんなアカデミーの「今昔」をまとめたのがこの展示でした。

開学30周年記念論文「市制100年を迎える川崎」授賞式開催！！

12月10日(日)、ホテル精養軒で開催された「開学30周年記念パーティ」において、記念論文審査委員長牛山泉氏(元足利工業大学学長)から、応募があった記念論文に対する審査の経緯と講評について報告があり、以下の方々の受賞が発表され、授賞式が執り行われました。

【最優秀賞】 朴 海淑

四半世紀、一外国人の目に映った川崎模様—

【優秀賞】 尾中美紀

わたしの希望する川崎市の方向性となつてほしい姿

【奨励賞】 丹羽繁夫、関 豪夫、

吉松岳史

授賞式では、受賞者の方々から受賞に対する喜びのあいさつがありました。

なお、最優秀賞と優秀賞の論文については、その全文を委員長の講評と併せて冊子に取りまとめ、公表される予定です。



2023年度「受講生のつどい」が開催されます

3月7日(木) 13:00~16:00 プラザ4階401会議室

30単位取得された受講生への修了式を第1部として、続く第2部は受講生・先生方とともに漫才やグループ対抗クイズを楽しむ、という懇親の場です。修了生以外の方も大歓迎です(要事前申込3/4必着)。先生方との歓談もお楽しみください。

今年はフランス語を母国語とする奥様と中原区在住の旦那様という、吉本興業所属の国際夫婦漫才コンビ「フランポネ」をゲストにお迎えします。日本人と外国人の笑いの違いなど興味深いお話(講座?)が聴けるとおもいます。この2年間はオンライン併用で開催されましたが、今年は会場参加のみといたします。普段あまり接する機会のない別の講座やWSの方たちや先生方とお知合いになる絶好の機会をお見逃しなく…、お飲み物とスナック菓子もご用意いたします。



2024年度前期受講生募集が始まりました！

申込み締め切り日 2月20日(火)

定員に満たない講座は先着順で追加募集します。

受講説明会(14:00~15:30)

2月1日(木) 麻生市民館 第1会議室

2月7日(水) 生涯学習プラザ201(オンライン併用)

2月8日(木) 高津市民館 第5会議室

2022年度後期「現代事情」講座から生まれた本のご紹介

『ロシア・ウクライナ戦争—

歴史・民族・政治から考える』

塩川伸明編、松里公孝、大串 敦、

浜 由樹子、遠藤誠治 著

東京堂出版 4,180円



30周年合同フェスタ報告(写真) 12月9日、10日



1)「開学30周年を祝う」バルーン



2)財団スポーツ教室発表会「フラダンス」



3)セルフきたかせのパン販売



4)ウォーキングサッカー



5)展示・研究発表「環境とみどり」
受講生の多彩な活動と成果!



6)手回し発電体験



7)わくわく!どきどき!回転台付ぱらぱらまんが



8)いろいろ科学実験教室



9)講演・討議・展示「政治・社会」WS
市民がつくる学びの源流-京都人文学園-



10)アロマでバスタイムを楽しもう!



12)面白バルーンを作ろう



11)古本市、地場産野菜販売



13) 壁展示 (「今昔物語」、年表、地域貢献、フロンティアの活動、開学30周年メッセージ)
平置き展示 (出版、活動報告書、講座のご案内パンフ、NPO通信・かわら版・タイトルバック)

3名の新しいカリキュラム企画・編成委員の先生方をご紹介します

「知の普遍化への仕掛け」

副学長 前日本大学教授 関 幸彦

(日本史、協力:エクセレント・交流館)

この度、ご要請を受け、かわさき市民アカデミーのお手伝いをさせて頂くことになりました。以前にも副学長は経験ありますが、学びの環境やスタッフも変わり、新しい気持ちで頑張りたい



く思います。昨年、大学も定年を迎え人生の遊行期となり、「知の普遍化」に少しでもお役に立てればと、引き受けさせて頂きました。市民による、市民のための学びの場こそが、アカデミーの理念だろうと思っております。世情も忙しく、時勢も変化する昨今です。けれども、変化しないもの。これを探し続けることも大切なことかと思えます。変容すれども、変化しないもの。学びの継続化の実現に向け、どのような方法があるのかと。皆様たちと知恵を出しあって、アカデミーを更なる高みに導けるように、微力ながらお手伝いしたいと思えます。

中央ユーラシアの「地の利」

東京大学名誉教授 小松 久男

(世界史、協力:エクセレント)

かわさき市民アカデミーとのご縁

は、2020-21 年度に世界史講座の一つとして「中央ユーラシアの歴史」を開講したときに生まれました。中央ユーラシアは、周辺の東アジアや南ア



ジア、西アジア、さらにはロシアと長く深い関係を築いてきた地域で、モンゴル帝国を想起すればわかるように、その歴史は世界史のダイナミズムを体現していると言っても過言ではありません。現代の国際関係を見ても、中国とロシアとの間に位置するこの地域の重要性が注目されているところです。私自身の専門は中央アジアの近現代史ですが、このような中央ユーラシアの「地の利」を活かして、これからのカリキュラム編成に少しでも貢献できれば幸いです。どうかよろしくお願いします。

「自己紹介」



法政大学名誉教授 柳沼 壽

(経済)

この度、かわさき市民講座の企画に関わることになりました。

私とかわさき市民講座との出会いは、相当以前に宮前区で講義を担当したことに始まります。その後、宮前で二度の講義を行い、昨年は武蔵小杉での講座の企画に関わることになりました。

私に関わる経済系の分野でも、新たな出来事が次々と登場しています。経済学の思考や論理が、それらの理解と、今後の対応に何かの示唆を与えてくれるような企画が実現出来ればと願っております。

かわさき市民講座は、市民による市民のための講座という高い目標と志を備えている講座です。間宮先生の後任として次の方に継いでいけるよう努めて参りますので、よろしくお願いいたします。

編集後記

盛り沢山の記念行事とフェスタでした。歴史と様々な活動を辿った壁展示群は内容が濃く、常設する価値がありました。記念鼎談「学び続けることの意味」では、何歳になっても学び続けることの重要性、何歳になっても学ぶ場があることの必要性、をメッセージとして頂きました。期待を叶える場であり続けることがアカデミーの使命であると思えます。(Y.A)

認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー

発行人 広報・地域連携部会

編集人 かわら版編集委員会

川崎市中原区今井南町 28-41

川崎市生涯学習プラザ 3F

電話 044-733-5590 FAX 044-722-5761

問合せメールアドレス

info@npoacademy.jp/<http://npoacademy.jp/>HP は
こちら

